

実践報告

プラネタリウム番組を制作しよう！

—プラネタリウム体験講座 “アストロクラブ” での実践—

—守辰也¹、岡崎直美¹、原田幸子¹、原田 浩¹、西山広太¹、粟野諭美²
(アストロクラブ¹、岡山天文博物館²)

1. はじめに

「プラネタリウムを見に行く」という会話を聞くと、「ああ、この人は星空や宇宙が好きなんだなあ」とごく普通に理解しますが、「プラネタリウムを投映しに行く」と聞くと、「むむ、この人はもしかしてプラネ関係者？」とちょっと特別視してしまうのは、私（粟野）だけではないでしょう。どうしても一般の人たちにとって、プラネタリウムは「見に行くもの」で、「自分が参加する／体験する」ところではないと考えてしまうものようです（最近に参加型のプラネタリウムも実践されていますが、まだまだ主流とはいえませんが）。とくに制作や投映となると、「特殊な技術や知識が必要じゃないの？」「難しそうですよね？」と聞かれることが多々あります。

岡山天文博物館では1990年にプラネタリウムを設置して以来、通常の一般投映では番組を自動で投映するオート形式を、そのほかのイベントや学校の授業などでは、希望に応じてマニュアル投映を採用してきました。この方法で多くのお客さんに楽しんでいただいています。そして中には、プラネタリウム機器や投映方法に興味を持つ人も少なからずいます。私自身も、けして特別な機械ではないプラネタリウムを、「見る」だけではなく「実際に触れてもらう場」として提供しないのはもったいない、という気持ちがずっとありました。また、以前他館で目にした興味深い実践も、ずっと気になって頭に残っていました。

ちょうどその頃、同じように思っている人が実は身近にもけっこういる、ということを知

りました。そんな発見に元気づけられて、2003年の春から始まったのが、ここで紹介するアストロクラブです。もちろんはじめるにあたって、検討すべき課題はたくさんありました。実践の場として提供するといってもいったい何からはじめて、どこまでできるのか不安でもありました。けれどもとりあえず、館のスタッフがフォローできる範囲内で、できることはすべてやってみよう、そしてなにより、参加メンバー自ら新たな楽しみを見つけてもらおう、ということを第一の目的として、現在に至っています。

以下はアストロクラブのメンバーによる、クラブの紹介と実践報告です。

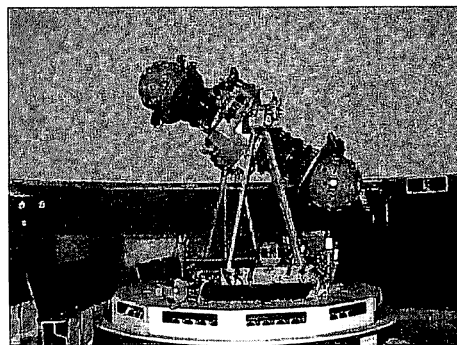


図1 プラネタリウム投映機
(ミノルタMS-10)

2. アストロクラブとは

アストロクラブとは、プラネタリウムに興味を持ち、プラネタリウム番組を自らの手で制作しようという人たちの集まりです。プラネタリウムや星を見るのは大好きですが、番組制作については、みんなまったくの初心者

です。シナリオ作り、キャラクター作り、音声・BGMの吹き込み、プラネタリウムの操作等々、はじめてのことばかりで勉強と苦労の連続ですが、メンバー全員、楽しみながら約1ヶ月に一度の割合で活動を続けています。

はじめの数回は、プラネタリウムのしくみや操作方法、そしてどんなことができるのか、など基本的なことを学んでいきました。はじめての機械（しかも高価な精密機械！）なので最初は触れるのもドキドキでしたが、けっこうおもしろそうだ、と思ったのは、みんな同じだったようです。

3. 番組制作にあたって

ひとつおりのプラネタリウムの操作を学ぶと、やはり自分で実際に投映をしてみたくになります。そしてできればオリジナル番組の制作も…。そんなムードが漂い始めたそんなとき、メンバーの1人がシナリオを考えてきてくれたことで、番組制作はスタートしました。

3.1. シナリオ

今回のシナリオは、「亡くなった愛犬（ラリー）を天にあげてあげたい」という、あるメンバーの思いがきっかけとなりました。また、日本からは見ることができない南天の星空を投映したいという希望から“日本で見える北半球の星空から南天の星空までを愛犬ラリーが旅する”といった感じのストーリーを想定し、さらに具体的に星空をどんな風に移動して、どの星座を登場させたらいいだろうか等、プラネタリウムの基本的な仕組みや動きを頭の中で考えながら、まずシナリオ案を作成しました。

次にこの案をもとに、みんなでシナリオを手直しすることになりました。登場する星座の神話を調べて、内容に活用できないか検討したり、実際にプラネタリウムで星空を投映しながらシナリオ案を読み、本番の投映をイメージしながら内容を検討していきました。

その結果、発案者であるメンバーを主人公“たっくん”として登場させ、また星座達と主人公との会話を大幅に増やす、ということで、シナリオはひとまず完成となりました。

3.2. イラスト

シナリオがある程度完成すると、登場人物も決まってきます。登場人物をドームへ投映する方法として、スライドを利用した投映と、パソコンのスライドショーを利用した投映を検討した結果、今回は複雑な作業が少なく、コストもかからない後者を採用することにしました。しかし問題は、内容に合ったイラストをどうするか（誰が描くか）です。みんな心の中で、絵を描くのが好きな新メンバーの参加を期待していたものの結局あられず、現メンバーが描くことになりました。その結果…まあどこか愛嬌のあるキャラクターが誕生したのではないのでしょうか（苦笑）。しかしこの後、実際に声が吹き込まれることによって、登場人物たちは生き生きとしてきたのです。

3.3. 音声・BGM

さていよいよ台詞の吹き込みです。地元ケーブルテレビでアナウンサーをしている1名を除いては、マイクに向かったことなどない全くの素人の集まりです。彼女からアドバイスを受け、配役を決め、何度か読み合わせをして、いざマイクの前に…。しかしマイクの前に立つと、出掛かった声が出てこなかったり、裏返ってしまったり。しかも吹き込んだはずの声がマイクの調整不足でやり直しになったりと悪戦苦闘でした。それでもなんとか音声の吹き込みが終わると、その後は完成を目指してとんとん拍子に進んでいきました。

さっそく録音した音声をパソコンに取り込み、台詞と台詞のあいだに間（ま）などを入れて編集し、さらにメンバーで選んだBGMや効果音も音声の上に重ね合わせました。なんとBGMや効果音は、メンバーのお子さん（小

学生) が実際にキーボードで演奏してくれました! こうして出来上がった音声CDを何度も聞いていると、愛着が湧いてくるから不思議です。

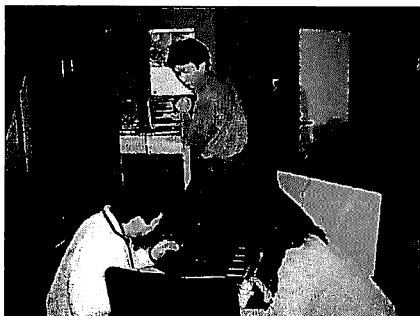


図2 BGMをパソコンに取り込んでいる様子

3.4. 投映練習

さて次はいよいよ投映に向けて、実際にプラネタリウム投映機を使つての練習です。クラブのメンバーは、一般番組は何度か見たことがあります、実際に投映者として機械に触るのは初めての人ばかりです。博物館の方に指導してもらいながら星空を動かしてみたり、星座絵を出したりと、何度も練習を繰り返しました。またキャラクターたちは、パソコンのスライドショーを利用して投映するため、そのタイミングなども打ち合わせしました。こうしてなんとか人に見てもらえることができる程度にまでなり、あとは本番を待つのみとなったのでした。

こうして完成した番組が、次に紹介する「星になったラリー」です。

4. 「星になったラリー」あらすじ

主人公の“たっくん”と愛犬のラリーは大の仲良し。でもそんなラリーも、年老いて死んでしまいます。たっくんは、その後もラリーのことが忘れられません。ラリーに会いたい…。いつもそう願っていました。

そんな夏のある日、ふと気がつく、たっくんは、はくちょう座のそばに立ってしま

た。そして、みなみじゅうじ座が自分の願いを叶えてくれるかもしれない、ということを知ります。はくちょう座から天の川に沿って南へ進み、さそり座、ケンタウルス座に出会い、そしてついにみなみじゅうじ座までたどり着いたたっくん。「もういちどラリーに会わせて。そしてラリーを生き返らせて!」そう願い事を唱え、みなみじゅうじ座に言われたように、天の川の水を飲みました…。

気がつく、たっくんは、おおいぬ座へ来ていました! そして目の前にはずっと会いたかったラリーの姿が。久しぶりの再会に喜ぶたっくんでしたが、ラリーとまた一緒に暮らすことはできないことを知ります。でももうたっくんは悲しくありません。星空を旅するうちに、命には限りがあること、だからこそ命が大切だということ、そしてラリーはいつも自分の心の中にいることを知ったから…。

5. いよいよ本番!

ここまで順風満帆できたアストロクラブでしたが、投映担当メンバーの1人が本番数日前に急に体調を崩してしまい、当日参加できなくなってしまいました。今まで2人で分担していた作業を1人ですることになり、急遽、猛練習です!

そして運命の本番、3月27日を迎えました。その日は、少し早めに集まり、アンケート用紙を印刷したり、投映に向けて最終チェックをしたりして、いざ出陣! ケーブルテレビに出演して番組をアピールしたことや、情報誌などへの宣伝効果もあったのか、観客席は家族連れやカップルなどで満員御礼状態でした。自分たちの番組を人に見てもらえるのは初めてなので、最初はとても緊張しましたが、次第にそれさえも心地よく感じられるほど落ち着いて投映することができました。参加できなかったメンバーの分まで頑張ろうというメンバー全員の気持ちのなせる技だと思いました。

さてお客さんの番組への反応はというと、思っていた以上に好印象だったようです。「おもしろかった。」「また見たい。」といったうれしい感想をはじめ、こちらも考えさせられるような一言もいただきました。

＜感想・コメントから＞

- ・ 人間の生き方も一日一日をどう触れ合って生きるかを気づかせてもらいました。
- ・ ぜひ2歳になる孫にも見せてやりたいと思いました。
- ・ とてもゆっくりした時の流れを体感することができ、気持ちよかったです。
- ・ 私の担任の先生も病気で亡くなりました。今日のラリーのように先生も星になったんだと思います。
- ・ 私も昔飼っていた犬に会いたくなりました。
- ・ 家でも犬を飼っているの、犬がいなくなったとき、私もおおいぬ座を探してみたいと思います。
- ・ 子どもの教育にいい！（生死を考える上で）
- ・ 身近なところから話を作り出していたので親しみが持てた。
- ・ 勉強になりました。本当に良かった！
- ・ これからもずっと続けてください。次作、期待しています。また見にきます！

6. リバイバル投映

無事投映会が終わり、月日は流れ春も終わる頃、もう一度「星になったラリー」を投映しようか、という話が出ました。せっかく作った番組を、一度きりの投映で終わらすのもったいないし、前回見られなかった人にもぜひ見てほしいと考えたからです。実際、見たいという周りからの声もありました。また前回の反省を生かしてもう一度投映したい、ということもありました。

実はこのアストロクラブの活動を、地元ケーブルテレビがずっと取材してくれていました。そして投映会が終わって数週間後、今ま

での活動の様子や投映会の様子などを30分ほどに編集した特別番組を放送してくれたのです！ その反響もさることながら、実際に番組を見たメンバーたちは、またさらにやる気が沸いてしまったのでした。

検討した結果、リバイバル投映はお客さんの多い夏休み、8月21日に決定しました。前回の反省点である

- ・ 座る場所によって、南の方に映る星座（みなみじゅうじ座など）が見えにくかったこと。
- ・ 星空と登場人物のイラストへの切り替えが早いこと。また星空ももっとゆっくり動かした方がいいこと。

などを踏まえ、入念に見え方のチェックをし、投映方法も少し変更して練習をはじめました。また夏休みということもありさらに宣伝にも力を入れて、オリジナルの番組リーフレットも作成することにしました（図3）。期待していた以上にきれいに印刷されてきたリーフレットを見たときは、みんな感無量でした。



図3 完成したリーフレット（表紙）

そんなある日、うれしいニュースが届きました。前回、体調を崩して参加できなかったメンバーが今回の投映には参加できる、とい

う知らせでした。これにはメンバー全員大喜びで、ますますやる気が出てきます。そしていよいよ当日、博物館に入ると久しぶりに見る友の笑顔が迎えてくれました。ぶっつけ本番ながら、投映にも挑戦し、見事にやってのけた友の姿に、みんなとても感激しました。

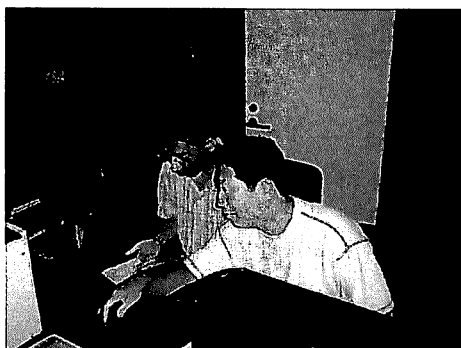


図4 本番前の最終チェック



図5 いよいよ本番！

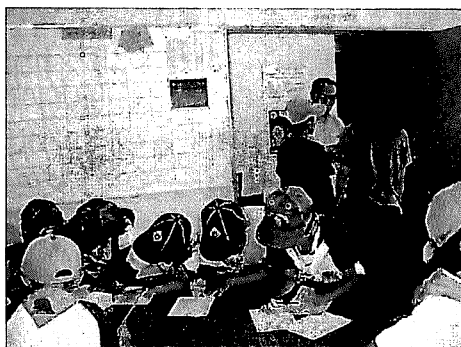


図6 アンケートに答える少年団の子ども達

リバイバル投映があると知って、今回も来てくれた地元の少年団の子ども達や、ご家族

連れなど、たくさんの人たちが見に来てくれました。投映後のアンケートでは、前回同様「思っていた以上に良かった！感動しました。」といううれしい感想をはじめ、「イラストなど描いてみたいなあと思いました。」など新メンバー加入(?)を期待させるコメントもありました。

7. いま、そしてこれから

アストロクラブはいま(2004年秋現在)は第2作目の番組を制作中です。大まかな構想も出来上がり、シナリオの完成を目指して打ち合わせを行っています。またスライドの自作なども検討中です。プロの方が作るようなきっちりした番組は無理でも、手作りで、子どもから大人まで無理なく見ることができる番組を作っていこうと、メンバー全員で頑張っています。そして見てくださったみなさんの心の中に、何かひとつでも残るようなと思いつつ、今後も頑張っていきたいと思つています。でも今は忘年会が楽しみで、待ち遠しいメンバー達です(笑)。

アストロクラブの活動の詳細については、博物館HPもご覧ください。

<http://www.rweb.ne.jp/astro/index.html>